

2016年度 事業報告

1. 総会・役員会・委員会の活動

① 総会の開催

総会 5月24日(火) 大阪市社会福祉センター

② 役員会の開催

4月9日(土)、6月20日(火)、7月13日(水)、9月8日(木)
10月17日(月)、12月5日(月)、3月13日(月)

③ 施設長会の開催

8月22日(火)、3月8日(水)

④ 各種委員会の開催

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| ◆ 企画委員会 | 事業等の企画・運営・調整 |
| ◆ 拡大企画委員会 | 事業等の企画・運営 |
| ◆ 研修委員会 | 各種分野別研修会等の計画・実施 |
| | ① 地域の子ども研究会 |
| | ② 地域の子育て支援研究会 |
| | ③ 地域の障がい児・者研究会 |
| | ④ セツルメント研究会 |
| ◆ 自然体験施設事業委員会 | ①びわこ青柳浜 セツルの家の運営と活動 |
| | ②奈良県東吉野村 山の家 <small>の</small> 運営と活動 |
| | ワークキャンプ活動(小・中・高生) |
| | ③びわこセツルの家改修工事 |
| 《 特別委員会 》 | |
| ◆ バザー実行委員会 | 第18回自然体験施設応援バザーの企画・運営 |
| ◆ 全国研修会準備委員会 | 日地協主催 第21回全国地域福祉施設研修会名古屋大会 |
| ◆ 全国児童部会準備委員会 | 日地協主催 第15回全国地域福祉施設研修会児童部会 |

2. 年間行事と主な予定

4～12月	奈良県東吉野村山の家ワークキャンプ活動	東吉野村山の家
4～3月	奈良県東吉野村 山を家の利用	東吉野村山の家
5月24日	大阪市地域福祉施設協議会総会	大阪市社会福祉センター
5月29日	第31回 ともだちドッジボール大会	長 居 小
6月9～10日	第58回 大都市社会福祉施設協議会	名古屋 市
7～8月	びわこキャンプ場 セツルの家の利用	滋賀県大津市青柳浜
9月18～19日	第15回 全国地域福祉施設研修会児童部会	三重 県
11月20日	第46回 ともだちフェスティバル	都島 映 グランド
11月6日	第18回 自然体験施設応援バザー	平和の子保育園
1月31日	新年会	堀江 燈花
1月23日	第22回 こども将棋大会	育徳園早川記念ホール
2月17～18日	第21回 全国地域福祉施設研修会	東 海 市

3. びわこキャンプ場セツルの家の運営

①年間事業計画

・ 4月30日	消防査察に関する打ち合わせ（工事業者）	セツルの家
・ 5月8日	セツルの家下見	セツルの家
・ 5月18日	セツルの家利用打ち合わせ会	長居保育園
・ 6月26日	セツルの家ワークキャンプ	セツルの家
・ 7月1日	セツルの家開設準備	セツルの家
・ 7月1日～ 8月31日	セツルの家夏季利用	セツルの家
・ 7月31日	セツルの家消防訓練（わかくさ保育園）	セツルの家
・ 9月2日	セツルの家夏季利用片付け	セツルの家
・ 9月～6月	セツルの家夏季外利用	セツルの家
・ 10月30日	セツルの家倉庫工事・荷物移動作業	セツルの家
・ 11月27日	セツルの家倉庫床・防腐剤塗布作業	セツルの家
・ 12月4日	セツルの家倉庫工事完了・荷物搬入作業	セツルの家
・ 12月4日	山の家からの荷物搬入作業	セツルの家

②施設整備

- ・浜側、駐車場側の草刈り・整備
- ・浜側、駐車場側の草刈り・整備
- ・浜東側、溝の清掃・整備
- ・消防査察による本棟台所不燃工事
- ・別棟排煙用口工事
- ・玄関門扉工事
- ・倉庫床組及び棚板製作工事

③利用施設 23施設

④利用泊数 39泊

○利用延べ人数		2,328人	
内訳	・ 幼児、児童	1,563人	(障がい児 87人)
	・ ボランティア、保護者	437人	
	・ 職員	328人	

⑤利用施設からのアンケート（抜粋）

- ・ マムシ発見され、駆除する。
- ・ アブの発生があり、刺される。
- ・ 本棟のロールカーテンの付け替え、カーテンの設置をする。
- ・ 駐車場左側に鋼管パイプで物干しを設置する。
- ・ 浮島のポリタンクに水が入り、使用が難しかった。
- ・ 台所のエアコン設置が有難かった。
- ・ 冷蔵庫に前の施設の食材が残っていることがあるので確認をしてほしい。
- ・ お風呂から本棟まで、風呂上りに裸足で通れるような工夫がほしい。
- ・ 駐車場の有効活用を検討したい。
- ・ 冷蔵庫が冷えにくいことがある。

⑥担当 宮川、竹内（長居保育園）

4. 東吉野村. 山の家 の 運営 と 活動

① 山の家 利用 実績

2016年度 東吉野村 山の家 利用報告 (2016年 4月 1日 ~ 2017年 3月 31日)

日 付	利用者	利用形態	日数	利 用 内 訳				計	利用料金
				小未 満	小学 生	中高 生	大 人		
4月 23日	個人	1泊2日	2	0	0	0	2	2	8,200
5月 3日	個人	2泊3日	3	0	0	0	6	6	17,200
7月 23日	団体	1泊2日	2	0	14	0	4	18	11,800
8月 13日	個人	1泊2日	2	0	0	0	5	5	8,500
8月 21日	個人	1泊2日	2	0	0	0	14	14	10,800
9月 3日	団体	1泊2日	2	0	0	5	2	7	9,400
9月 10日	団体	日帰り	1	0	13	5	2	20	4,000
9月 24日	個人	1泊2日	2	0	2	1	3	6	8,600
合 計			16	0	29	11	38	78	78,500

山の家事務局 多賀井 潤一郎

5. ワークキャンプ

① 活動報告

○ ワークキャンプ年間1回

日 程	行 先	内 容	参加 施設	車 両	参加人数			
					児童	中高生	大人職員	合計
7月3日	山の家	リバートレッキング	5	マイクロ2台	38	5	9	52

- 晴天に恵まれるが、川の水が冷たく、リバートレッキングから川遊びに変更する。毎年継続して行っている行事とあって楽しみにしている中学生や初めて行けることを喜ぶ4年生の姿が見られた。

② 年間のまとめ

- 今年度は山を家の最後の年ということもあり、例年のような取り組みが行えなかった。
- ワークキャンプの参加者は、ここ数年減少傾向にある。中高生がワークキャンプ活動や大地協行事に安心して集い、繋がり合える居場所となるように地域の子も研究会内でニーズを持ちより、長期的なビジョンを共有して、いま必要なことを計画に移していきたい。

6. 自然体験施設応援バザー

①第18回 自然体験施設応援バザー

『HEY！WAになろう』

- 日 程 : 2016年11月6日(日) 11:00~15:00
- 開催場所 : 平和の子保育園・エコロパーク新森第4(有料駐車場)、旭会館駐車場
- スタッフ : 80名(ボランティアを含む)
- 参加施設 : 愛染橋保育園・阿さひ保育園・育徳園保育所・今川学園隣保館
風の子保育園・大国保育所・特養いくとく・都島友の会
長居保育園・南港東保育園・望之門保育園・平和の子保育園
やまと保育園・わかくさ保育園 *地域の子ども研究会ほか

○収支報告

	収入	支出
金券	430,000	
タオル	218,400	149,990
東吉野物産展	29,555	
物品販売	60,190	
おでん(現金売り)	150	
野菜	33,020	30,000
ガレージ賃料		63,048
振込み手数料		540
合計	771,315	243,578
純利益		527,737

- バザーの目的の柱を、①地域住民との交流の促進、②開催施設の活性化、③施設及び施設職員間の交流」とした。
- 会場スペースの確保のため、近隣の駐車場をお借りしたほか、有料駐車場を利用したことで各施設の飲食ブースが狭いながらも設営することができた。また、地域の空駐車場をご厚意で貸していただいたので、各施設の運搬車両を停めることができた。
- このバザー開催にあたり、地域とのささやかな関わりを積み重ねてきたという実感がある。収益だけにこだわらない、大地協らしいバザーを今後も作っていきたい。

7. 職員の研修会の開催・参加

① 全国地域福祉施設研修会 第15回児童部会

- ◆ 日 程 2016年 9月18日(日)～19日(月祝)
- ◆ 開催場所 三重県(児童養護施設)・津市青少年野外活動センター
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会

② 2016年度 第21回全国地域福祉施設研修会

- ◆ 日 程 2017年 2月17日(金)～18日(土)
- ◆ 開催場所 東海市(日本福祉大学)
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会
東海地区地域福祉推進協会

③ 全体研修会(地域福祉研修会)の実施

○第1回 『なんでも話そう!何でも聞いてみよう!』 ～ 大地協施設トークセッション研修会 ～』

- ◆ 日 程 2016年 10月18日(火) 19:00～21:00
- ◆ 会 場 育徳園保育所 幸分ホール
- ◆ 講 師 小谷 啓二氏、倉光 慎二氏、金 恵栄氏
- ◆ 参加者 110名
- ◆ 内 容

大地協の歴史から学び、レガシーをどう引き継いでいくのかというテーマでトークセッションが行われた。はじめに小谷啓二氏が学生の頃のBBSやキャンプカウンセラーの経験が子どもたちとの関わりの基礎になっているというエピソードを話された。児童福祉の世界に入ったのはさまざまな福祉分野に携わり、単にサービスを提供するだけでなくすべての人が住み慣れた地域でいかに自分らしく生活をする事ができるかという地域福祉の視点を話された。

次に倉光慎二氏は「もう一歩前に踏み出そうとする勇氣」について語られた。調理員として従事していたころジャガイモたっぷりのカレーを食べたいという子どもの気持ちに伝えるべく奔走したエピソードでは子どもたちの喜ぶ表情が原動力になっていると話された。また、学童保育研究会での小掠先生などとの出会いから切磋琢磨して子どものあそびの環境の向上や連続勉強会の取り組みなど施設の壁や法人の枠を超えた取り組みの意義について語られた。

最後に金恵栄氏は、ご自身が在日韓国人2世として生きるなかで受けた差別や貧困の経験を話された。大阪の在日韓国・朝鮮人コミュニティとの出会いから、自分らしく生きようと考えている頃に愛信保育園の立ち上げに携わった。愛信保育園では、利用者の在日の人やニューカマーとともに本名を名乗ることの大切さを訴える運動にも取り組んだ。あるきっかけから望之門保育園に勤めることになり弱者とされる人も含むすべての人に平等の権利を認める法人の理念に感銘し現在もその精神を引き継いでいると話された。しかし、毎年プログラムをこなしていく中で消化不良のような気持ちがわき悩んでいたところに大地協と出会い何があっても信念に基づき実践をする力、ダイナミズムを感じる事ができたという経験から、長い歴史を踏まえながらも変えてはいけないものと変えるべきものの整理をしていくことの大切さを話された。

以上のように大地協で活躍された諸先輩の想いや実践を拝聴し、いま現場にいる私たち地域福祉施設の職員は何に取り組んでいくことが大切かということ会場参加者110名全員で語り合う研修となった。

(文責 西野伸一)

○第2回 『なぎさの福祉コミュニティ概念から地域福祉の役割を考える』

- ◆ 日 程 2017年 1月24日(火) 19:00~21:00
- ◆ 会 場 育徳園保育所 幸分ホール
- ◆ 講 師 岡本 榮一 氏 (大阪ボランティア協会顧問 兼 ボランティアリズム研究所長)
- ◆ 参 加 者 51名
- ◆ 内 容

岡本榮一氏は、当時大阪市西成区南開にあった大阪キリスト教社会館で医療ケースワーカー、児童館職員として勤務されていた。そのころ大地協のセツルメント研究で菅良介氏や稲葉光一氏と出会い、地域福祉についての研究を進める大きなきっかけとなった。地域とは何か、施設とは何か(どのような役割があるのか)といったことを考え、福祉を科学的に研究する必要性と重要性に気づき、その結果「なぎさの福祉論」を提唱された。

なぎさ論は「福祉施設とは何か＝地域関係」というところから始まり、入所型施設も含めた地域福祉の概念による「施設の社会化」や「コミュニティケア」について論じたものである。なぎさ論は、①地域協働性②地域特性③アイデンティティ④ノーマライゼーションをキーワードとしている。施設が地域との関係をどう考えるのかということが重要である。施設は、哲学(方針)を持ち、どのように地域との関係をつくるかというスケジュール化を行い、必要なことに関しては先駆的に取り組むことで制度化していく(お金は後からついてくる)といったプロセスにより地域の福祉力を高めることができると語られた。なぎさ論の背景には岡村重夫理論がある。地域社会関係というキーワードが人間の尊厳と関わる基盤となっていることを基礎とし、施設そのものが「地域社会関係＝なぎさ」を創造し、施設生活者が「地域社会関係＝なぎさ」を生きると語られた。それは在宅であっても地域社会関係を喪失しているならば問題であるという現代の社会状況を表すようなお話でもあった。地域とは社会関係の総体であり、地域福祉とは、地域で行われる福祉活動ではなく、地域住民による福祉活動であると教えられた。

(文責 西野伸一)

○第3回 『第21回全国地域福祉施設研修 報告会』

- ◆ 日 程 2017年 3月15日(火) 18:30~20:30
- ◆ 会 場 育徳園保育所 幸分ホール
- ◆ 参 加 者 12施設 37名
- ◆ 内 容

阿部 志郎氏(横須賀基督教社会館会長 日本地域福祉施設協議会名誉会長)、原田 正樹氏(日本福祉大学教授)、岸川 洋治氏(横須賀基督教社会館館長 日本地域福祉施設協議会会長)、3名のお話を映像で振り返った後、各分科会に参加された方より報告をしていただく。当日参加できなかった方を含め、内容の濃い2日間の研修の学び、思いをみんなでも共有する事ができた。

8. 各種分野別研修会

I. 地域の子ども研究会

①年間テーマ

「地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す」

②活動報告

(1)合同行事の実施

○ともだちドッジボール大会

開催時期 2016年5月29日(日)

参加人数 11施設 379名

方法 2016年度はより「交流」を意識し、施設の枠を越えて合同チームを作り試合を行った。

午前…予選リーグの実施

午後…勝者・敗者共にトーナメント

○ともだちフェスティバル

開催時期 2016年11月20日(日)

参加人数 11施設 297名

方法 各施設、ブース(店舗)を設営し各ブースをまわり交流を図る。

(2)情報交換

ケース検討や現場での悩みや疑問、活動内容を発信し、即実践に活かすことのできる情報交換を実施した。また、各施設長に、各施設の歴史や理念、大地協・地域の子ども研究会への思いやスタッフへ望まれる展望などを聞き、研究会内で受けとめ共有し、個々の視野を広げスキルアップへ繋がるように実施し、それを資料としてまとめ施設へとかえした。

(3)研究活動

○テーマ【幼児保育から学校教育への接続機関の課題・不安を探る】

～幼児保育・学校教育・学童保育へ意識の共有、連携を目指して～

○方法 1、乳幼児期と学童期の環境の違いを調査(24時)

2、小1プロブレムについての文献を読み解く

3、幼児期(特に年長児)に入学を見据えて行っている(行うべき)家庭の役割を調査

※年長児を持つ大阪市内の保育園43施設996名の保護者・年長児クラスを受け持つ保育士に対してアンケート実施

(4)研修活動

研修内容・テーマとして「研究活動」とリンクさせ、子どもたちの連続した育ち・そこに携わる諸施設の連携などについて、計画しているが実施に至らなかった為、2017年度も研究・研修会を継続し、一回の研修単体ではなく数回に渡っての連続講座を企画、計画中。

Ⅱ . 地域の障がい児・者研究会

①活動報告

(1)研究会の開催

※第1回～2回 望之門保育園、第3回～7回 育徳園にて。午後7時30分～9時開催。

第1回	4/19	研究会メンバーの確認と役割分担。 今年度の活動計画。
第2回	5/24	<学習会①>の計画、立案。
第3回	7/5	<学習会①>の打ち合わせ。内容の最終検討。事前勉強会。
第4回	10/4	<学習会②>の計画、立案。
第5回	11/17	<学習会②>の打ち合わせ。内容の最終検討。事前勉強会。
第6回	2/6	研究会メンバー討議 「相模原市の障がい者施設での事件について考える」
第7回	3/14	研究会メンバー討議 「現場実践で気づいたこと～何なんやと迷ったこと・・・」

(2)学習会の開催

学習会①	7/4	「障がいのある子どもを持つ保護者の支援」 講師：上村 純子 氏（臨床心理士） 会場：育徳園幸分ホール 参加人数：50名
学習会②	11/22	「支援者が困っている子どもの行動を受容するには」 講師：伊丹 昌一 氏（梅花女子大学教授） 会場：育徳園幸分ホール 参加人数：43名

(3)外部研修会への参加

研修会①	2/2	公益財団法人 大阪特別支援教育振興会主催 特別支援教育講座 「保護者と教師・保育士のためのアンガーマネジメント」 講師：伊丹 昌一 氏（梅花女子大学教授） ※研究会より3名参加。
研修会②	12/18	平野区くらし市 ※研究会より4名が見学

Ⅲ. セツルメント研究会

①活動報告

(1)研究会の開催

- 今年度の研究会は、大地協調査（2014年度）の結果を分析し、「地域福祉施設の社会化と地域化」というテーマで取り組んだ。その中で見えた課題から新たな地域福祉施設の役割を発見することを目的とした研究をすすめた。

○会場：わかくさ保育園 時間：19時30分～21時ごろ

第1回	6/21	大地協アンケート調査（2014）の分析とこれから
第2回	7/19	研究論文（大阪市社会福祉研究）第39号への寄稿にむけて
第3回	8/2	地域福祉施設における施設の社会化と地域化
第4回	8/18	調査から見えてきた課題の検証
第5回	9/6	地域福祉施設の地域化をめざして
第6回	9/27	地域福祉施設の地域化を深める
第7回	12/6	地域福祉施設のミッション
第8回	12/9	地域福祉の諸問題への寄稿に向けて
第9回	1/6	編集委員会
第10回	1/13	編集委員会

(2)研修会の開催

- 全体研修会（地域福祉研修会）の主催を担った。地域福祉施設の歴史から学び、未来を語る研修会を年に2回開催し、参加者全体で地域福祉施設のあり方を考えた。
※研修会の詳細は、全体研修会の欄に記載。

第1回	10/18	テーマ：『なんでも話そう！なんでも聞いてみよう！ ～大地協施設トークセッション研修会～』 講師：小谷 啓二氏、倉光 慎二氏、金恵栄氏 会場：育徳園保育所 幸分ホール
第2回	1/24	テーマ：『なぎさの福祉コミュニティ概念から 地域福祉の役割を考える』 講師：岡本 榮一氏 （大阪ボランティア協会顧問 兼 ボランティア研究 所長） 会場：育徳園保育所 幸分ホール

(3)大阪市社会福祉研究第 39 号への寄稿

- 年刊研究誌「大阪市社会福祉研究」（運営主体：社会福祉法人大阪市社会福祉協議会）へ当研究会メンバーの共同執筆による論文を寄稿し掲載された。

(ア) タイトル

地域福祉施設の地域化をめざして ―大地協アンケート調査にみる施設のあり方―

(イ) 執筆者

西野 伸一、吉田 正義、今川 恵介、入道 雅美、木村 愛、楠 勇、佐伯 剛
廣谷 直樹、前本 理華、山田 芳子、蕨川 晴之、小谷 啓二、永岡 正己

(ウ) サマリー

NPO 法人大阪市地域福祉施設協議会セツルメント研究会が 2014 年度に行った加盟施設職員の意識調査の結果を踏まえ、地域福祉をめざす各分野の社会福祉施設職員が、地域とのつながりと課題をどのように考えているかを整理した。そして今日の地域生活、利用者のさまざまな貧困や生活問題に対して、地域福祉施設がどのように取り組む必要があるのか、また施設の社会化から地域化とはどのような方向をめざすべきか、そのために施設と職員はどのように活動を展開すればよいかを検討した。結論として、地域福祉施設が、地域社会の一員として日常的に地域とつながりを築くこと、利用者の背後にある地域生活全体を理解し、さまざまな問題を抱えた人の声を聴くこと、社会問題としての理解と人格的な関係にもとづく共感共苦を大切にして、孤立や排除に立ち向かい、コミュニティ、近隣社会を形成し、より良い社会への形成のために協働した活動が重要であり、そうした活動が地域福祉施設の地域化を深めることになることを論じた。

(エ) キーワード

地域福祉施設、施設の社会化と地域化、貧困、セツルメント、インフォーマルなネットワーク

(オ) 目次

1. はじめに
2. 今回の調査の概要と、各設問から見えた課題を検証する
3. 地域福祉施設における施設の社会化と地域化
4. 地域福祉施設の地域化を深める

IV. 地域の子育て支援研究会

①活動報告

- 構成メンバーが 1 施設 2 名となり、研究会としては機能せず活動休止状態である。

8. 職員厚生部

①ねらい

- 施設間の職員交流を深める。

②活動報告

○新年会

- 1月31日（火） 「川べり個室 堀江燈花」
- 42名（21施設、個人会員2名）参加

9. 広報宣伝部

①ねらい

- ホームページ・大地協通信を中心に、各研究会・研修会などの大地協の取り組みを、活動に協力・賛同いただいている方々（加盟施設、個人会員、利用者等）に報告する。

②活動報告

- ホームページ（<http://www.daichikyo.jp>）に各研究会の研修会や事業報告書などの大地協の取り組みを随時掲載した。
- メーリングリストを利用して、加盟施設及び個人会員に業務連絡や研修の案内を一齐送信した。

2016年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支決算書

特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会

2016年 4月 1日 から 2017年 3月 31日 (単位 円)

収入の部

科 目	決 算 額	予 算 額	増減(△)	備 考
1 会費収入	636,000	645,000	△ 9,000	
① 正会員会費収入	600,000	600,000	0	15,000×37施設 2016年度未収45,000
② 個人正会員会費収入	36,000	45,000	△ 9,000	個人12人
2 事業収入	5,312,243	4,980,000	332,243	
① 調査研究・研修事業収入	2,700	50,000	△ 47,300	参加費(地域の障がい児・者研究会学習会)
② まちづくり事業収入	0	0	0	
③ スポーツ文化的事業収入	167,900	250,000	△ 82,100	ともだちドッジボール大会、ともだちフェスティバル
④ 自然体験事業収入	5,141,643	4,630,000	511,643	バザー収益 527,737 びわこセツルの家4,236,890 山の家 97,016 毎日新聞 80,000 善意銀行 200,000
⑤ 小中高生の生活体験事業収入	0	50,000	△ 50,000	
3 寄附金収入	432,729	0	432,729	本部 207,132、熊本義捐金 225,597
4 雑収入	3,174	800	2,374	
① 受取利息	59	800	△ 741	
② 雑収入	3,115	0	3,115	冊子値引き等
5 前年度繰越金	7,550,329	7,550,329	0	
収入合計	13,934,475	13,176,129	758,346	

支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額	増減(△)	備 考
1 管理費	357,319	407,500	△ 50,181	
① 事務費	157,014	150,000	7,014	振込手数料、HP管理料等
② 会議費	66,345	150,000	△ 83,655	役員会、企画委員会、打ち上げ補助等
③ 会 費	133,960	107,500	26,460	大阪市施設協・日地協・大都市会議
2 事業費	6,246,499	6,350,000	△ 103,501	
① 調査研究・研修事業費	93,839	250,000	△ 156,161	地域の子ども研究会18,839、障がい児者研究会25,000 講師料20,000、冊子30,000
② まちづくり事業費	0	0	0	
③ スポーツ文化的事業費	169,048	250,000	△ 80,952	収入2-③欄参考
④ 自然体験事業費	5,983,612	5,650,000	333,612	びわこセツルの家 5,737,841 東吉野村山の家 245,771
⑤ 小中高生の生活体験事業費	0	200,000	△ 200,000	
3 雑 費	90,872	100,000	△ 9,128	お祝い、弔花、日地協事務局長会議交通費等
4 予備費		0	0	
5 次期繰越金	7,014,188	6,318,629	695,559	
6 熊本義援金	225,597			
支出合計	13,934,475	13,176,129	758,346	

会長 永岡 正己 様

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会の監査結果について

帳簿、領収書等精査した結果、適正に処理されていることを確認いたしましたことをご報告いたします。

2017 年 4 月 24 日 (月)

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

監事

戸田 正三 

監事

篠瀬 実千代 

2016 年度 自然体験施設事業 決算内訳

収入の部

項 目	セツルの家	山の家	助成金	バザー	総合計
利用料収入	4,234,100	78,500			4,312,600
ワークキャンプ参加費		18,500			18,500
寄付金			80,000(毎日新聞)		280,000
			200,000(府福祉基金)		
その他収入				527,737	527,737
雑収入(公衆電話・利息等)	2,790	16			2,806
合 計	4,236,890	97,016	280,000	527,737	5,141,643

支出の部

項 目	セツルの家	山の家	合 計	備考
事務費	20,444		20,444	振込手数料864円含む
管理費	120,000	0	120,000	
バス借料	2,533,558		2,533,558	
備品・寝具	306,114		306,114	
修繕費	1,967,443		1,967,443	本部会計1,878,876 セツル会計88,567
保険料	0	34,900	34,900	火災・WC
光熱水費(電話)	345,690	77,838	423,528	
雑費	285,647	0	285,647	防災査察交通費19,760円含む
固定資産税等	89,600		89,600	
平野区自治会協力費		50,000	50,000	
ワークキャンプ経費	69,345	83,033	152,378	9/22、12/4
合 計	5,737,841	245,771	5,983,612	

自然体験事業総収入	5,141,643
自然体験事業総支出	5,983,612
差額	-841,969
本部会計助成金	